放課後生活空間尺度（児童保護者評定用）の開発（2）

— 尺度の妥当性に関する検証 —

○川嶋健太郎¹・生駒忍²・佐藤哲康²・北原靖子²・蓮見元子²(¹ 東海学院大学・² 川村学園女子大学)

キーワード：放課後生活・保護者・妥当性

Construction of the After-School Life Scale(2): Validity testing of after-school space scale
 Kentaro KAWASHIMA¹, Tetsuyasu SATO², Shinobu IKOMA², Yasuko KITAHARA², and Motoko HASUMI²
 (¹Tokai Gakuin Univ., ²Kawamura Gakuen Woman's Univ.)

Key Words: After School, Parent, Validity

目 的

放課後の児童の生活実態を把握することは、児童がより充実した放課後生活を送るため、また児童期の発達課題を達成するためにも不可欠であると考えられる。これまで蓮見他(2012)では行動的側面で児童の放課後をとらえる尺度作成を目指してきた。

本研究では保護者による児童の放課後生活評価尺度の妥当性を検討するために、①基準となる児童自身による放課後生活評価（保護者による手助けあり）、②児童の生活全般に関する一部類似した他尺度、との関連について調べた。

方 法

調査対象者 関東近郊で首都圏通勤圏内に位置するA市の小学校に通う児童（低学年207名、高学年177名）および保護者1134名が参加した。

手続き 調査用紙を封筒に入れ、小学校担任から児童を通じて保護者に配布された。保護者は保護者向けの調査用紙に回答をした。また児童用の質問紙については、まず保護者自身が保護者向けに回答した後に、児童が回答困難な場合には保護者が回答を手伝うように指示がなされた。回収も同様に、児童を通じて小学校担任に調査用紙を提出した。

調査項目 保護者向け放課後空間評価尺度：児童の放課後の過ごし方を具体的な行動としてとらえる32項目を設定した（蓮見他，2012）。評定はこの1週間の放課後（平日）について、0日（ぜんぜん）、1日（たまに）、2から3日（ときどき）、4日（よく）、5日（いつも）の5件法であった。高学年児童向け項目：保護者向けの質問項目と同様の内容を高学年児童向けに修正した32項目であった。評定は同様の5件法であった。低学年児童向け項目：低学年児童向けに修正した16項目であり、同様に5件法であった。

調査用紙 保護者向け質問用紙は4種類あり、保護者用の放課後生活空間尺度に加えて、参加者グループごとに(1)親用小学生版 QOL 尺度（根本他，2005 など）、(2)Child Social Preference Scale 日本語版（岡田他，2012）、(3)学校適応評定尺度（小倉，2005）、(4)児童の回答時の様子の評定、のいずれかを合わせて記載した。

結 果 と 考 察

下位尺度に対する質問項目すべてに回答し、さらに「評定において児童の様子がわからず答えにくかった」に「とてもあった」と回答しなかった保護者の結果について分析を行った。このため分析に用いたのは、(1)親用小学生版 QOL 尺度（男性7名・女性141名）、(2)Child Social Preference Scale 日本語版（男性6名・女性142名）、(3)学校適応評定（男性3名・女性114名）、(4)低学年（男性4名・女性138名）(5)高学年（男性5名・女性106名）であった。

児童の回答との相関 表1は保護者向け放課後子ども空間尺度の4つの下位尺度（4因子それぞれの質問項目の合計得点）

と対応する高学年・低学年児童の対応する質問項目の合計得点の相関係数を表している。子どもと保護者の評定には中程度の相関がみられ、保護者による評定でも一定程度子どもの放課後生活をくみ取ることが可能なことを示している。

表1 放課後空間評価尺度 子どもと保護者との相関係数

		保護者			
		仲間遊び	からだを動かす	自分の時間	よい子
児童	低学年	.65 **	.47 **	.44 **	.43 **
	高学年	.67 **	.61 **	.38 **	.42 **

* $p<.05$, ** $p<.01$

他尺度との相関 表2は放課後空間評価尺度と同時に実施した他尺度の下位尺度との相関係数を表している。「仲間遊び」に関しては対応する他尺度と中程度の相関がみられたが、他は弱い相関がみられるにとどまった。

表2 放課後空間評価尺度（保護者用）と他尺度との相関係数

		放課後空間評価尺度			
		仲間遊び	からだを動かす	自分の時間	よい子
小学生版QOL(親用)	QOL	.28 **	.35 **	.08	.33 **
	身体的健康	.09	.23 **	.00	.05
	精神的健康	.20 *	.14	.09	.17 *
	自尊感情	.16 *	.25 **	.02	.27 **
	家族	.10	.21 *	.19 *	.28 **
	友達	.44 **	.34 **	.04	.20 *
	学校生活	.06	.11	-.03	.24 *
CSPS	シャイネス	-.39 **	-.30 **	.03	-.02
	社会的無関心	-.29 **	-.25 **	.18 *	.07
学校適応尺度	学習領域	-.17 *	.02	-.30 **	.38 **
	健康領域	-.03	.08	.01	-.10
	社会領域	-.12	-.03	-.09	.07

* $p<.05$, ** $p<.01$

引用文献

- 蓮見元子・北原靖子・川嶋健太郎・浅井義弘 (2012). 小学校低学年児童および保護者を対象とした放課後生活空間評価尺度の作成の試み 川村学園女子大学研究紀要 23(2), 163-174
- 根本芳子・松寄くみ子・柴田玲子・古莊純一・曾根美恵・佐藤弘之・渡邊修一郎 (2005). 「小学生版 QOL 尺度」を用いた子どもと母親の認識の差異に関する検討. 小児の精神と神経, 45, 159-165.
- 小倉正義 (2005). 小学生の適応評定尺度(保護者用)の開発 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. 心理発達科学 52, 207-213.
- 岡田涼・谷伊織・大西将史・中島俊思・辻井正次 (2012). Child Social Preference Scale 日本語版の作成. 心理学研究, 83, 44-50.